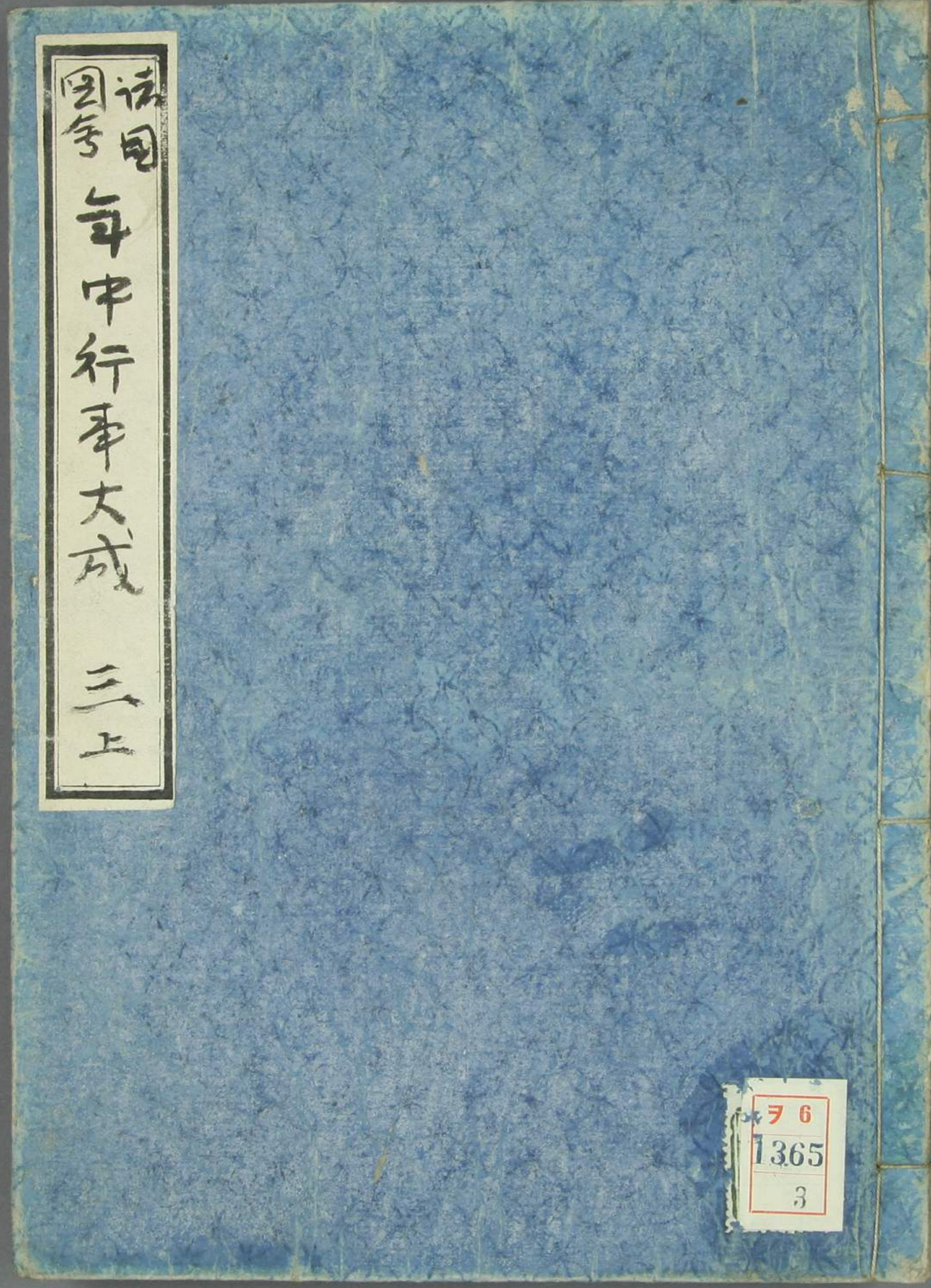




法蘭西
國
年
中
行
事
大
成
三
上

76
1365
3



中午 御落祭 糸 多賀祭 糸

中申 山王祭 糸

中酉 葵祭 糸

中亥 湯藏祭 糸

朔日 更衣 糸 孟夏旬 糸 貢氷 糸 虎杖狩 糸

二十日 溝 糸

三日 山崎日頭 糸 廣瀬龍田祭 糸

四日 水屋能 糸

七日 擬階姿 糸 結夏 糸 比叡山戒壇堂佛生會 糸

八日 灌佛 糸 水邊瀬祭 糸 真福寺佛生會 糸

山崎祭 糸 春日安居屋 糸 墨田壇腰 糸 抗摩祭 糸 芝祭 糸

浅間嶽散錢集 糸

九日 地主祭 糸

十四日 尚麻達竹養 糸 神夜祭 糸 土塔會 糸

十五日 新熊野社大般若 糸 五山兼拂 糸

十六日 三井寺千圓鏡 糸

十七日 日光御祭 糸 月御宮御祭 糸

廿日 如法行會 糸

廿一日 高野花供 糸

廿五日 端午節人形店開 糸

廿八日 駒 糸

月令 子規啼 糸 松茶渡 糸 鶉飼 糸

麦秋 糸 笋進献 糸 牡丹為茶燕子花開 糸

月録年

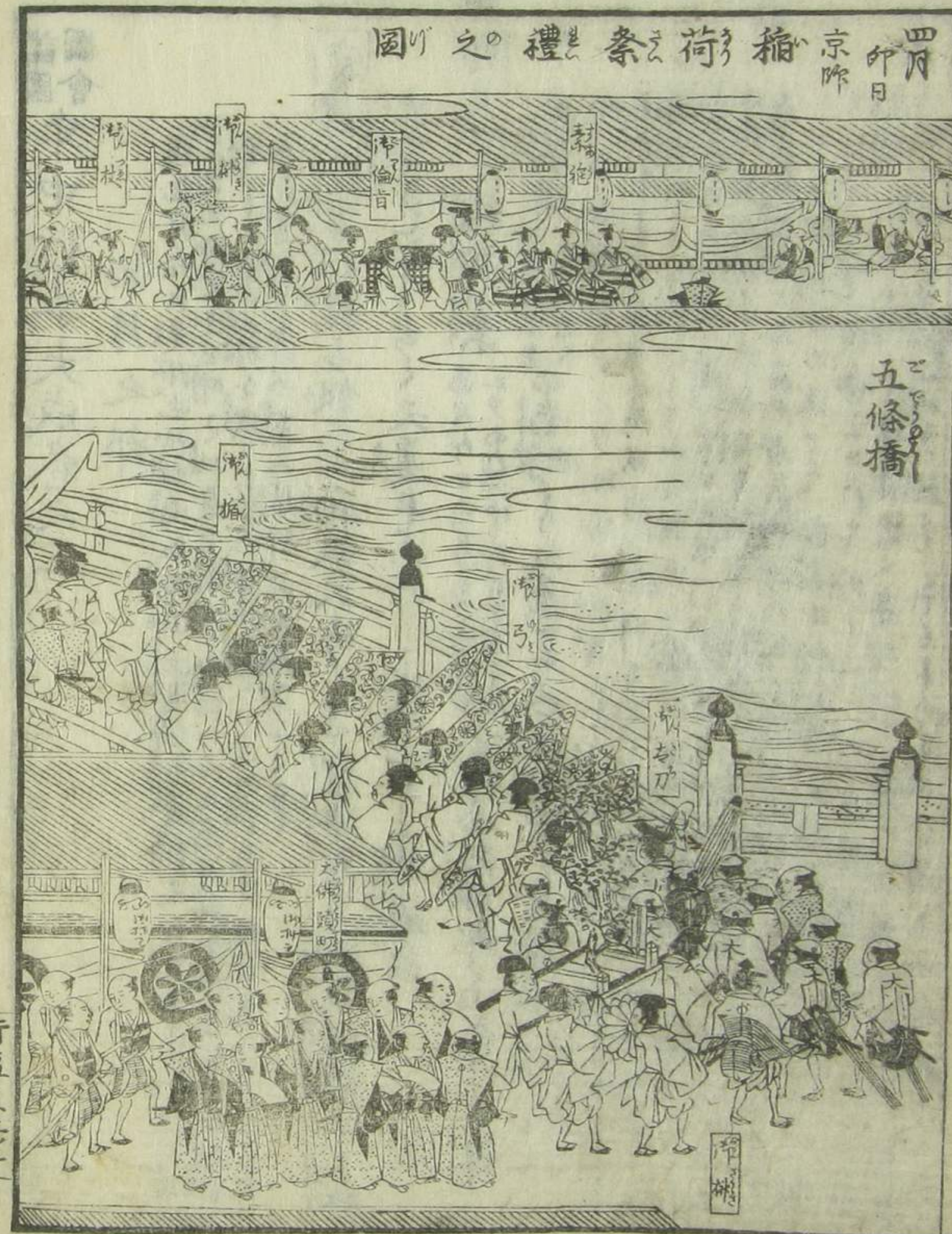
四月之部

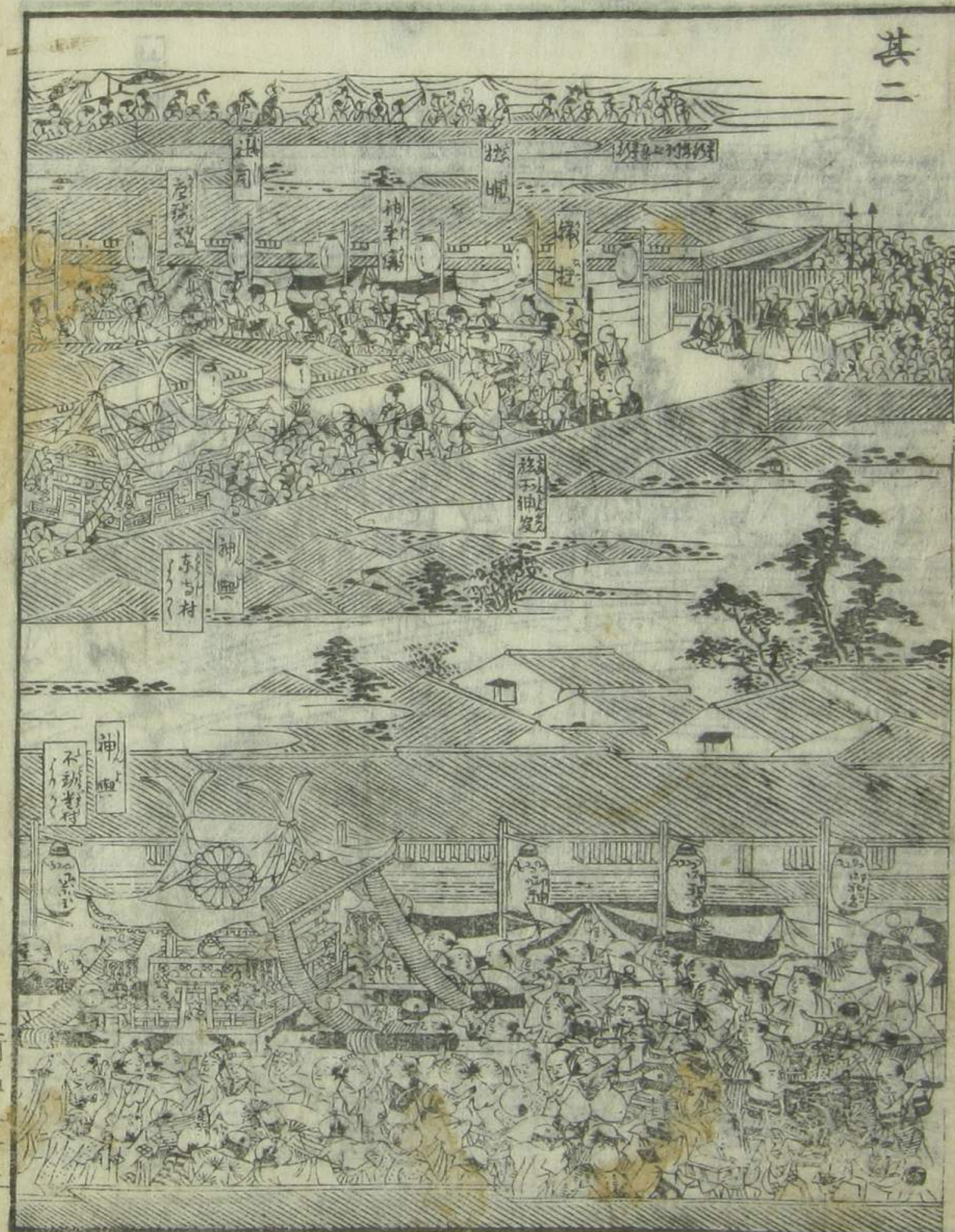
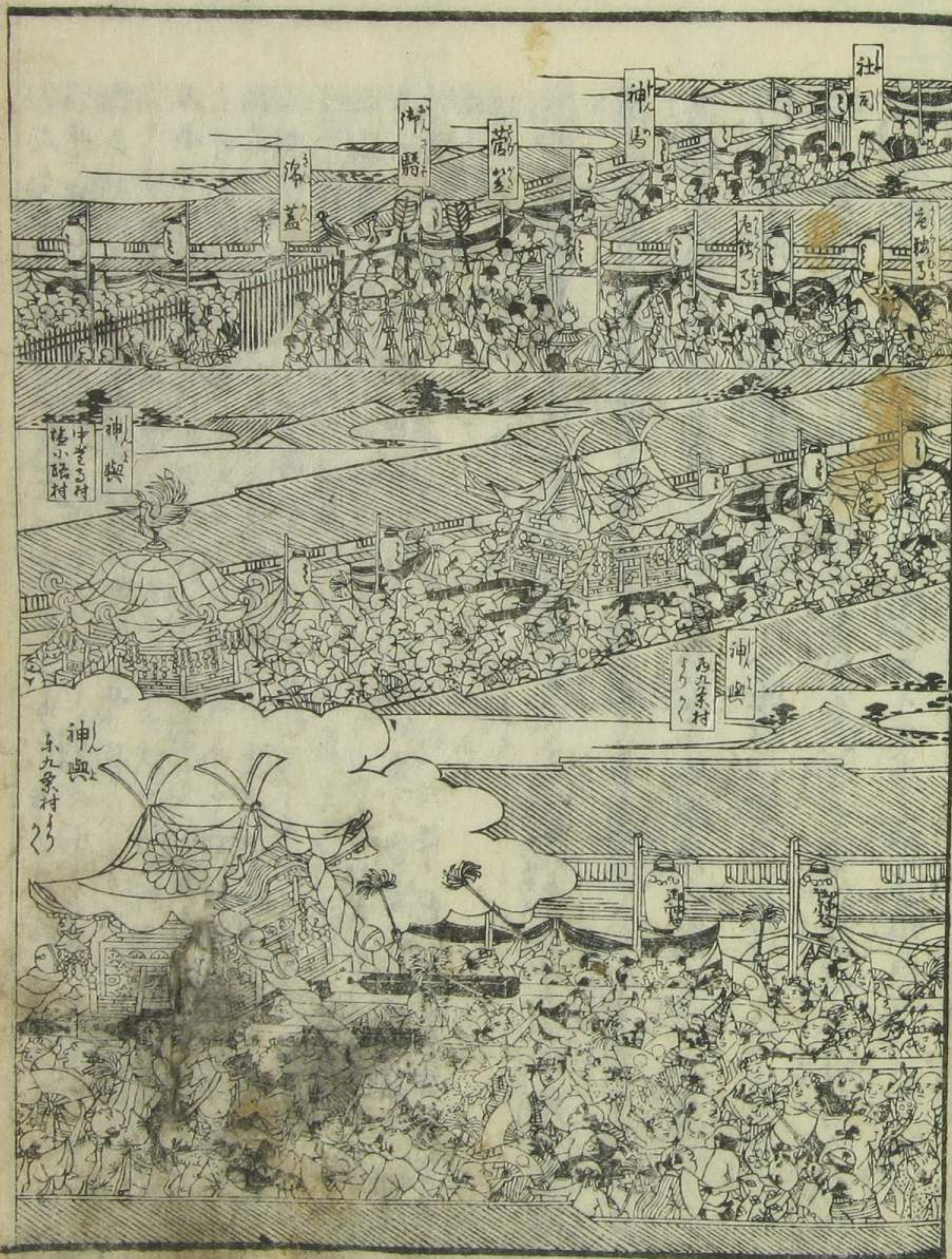
立夏

京師

卯日

五葉通今の松原の南例より九葉までの産古神といふ神傳二月初午の
桑下祀り
今日假神中より社司若騎馬にて神宴を具し伏見御座とわ
五葉橋西を流注少落城南へ越所に至り五座の神與小社より一の
祝詞あり已にけりより小若越所と題し西の方藤寺への神樂歌ひと
うせりといふ一基より小若越所の腰小まきく蝶見と云く物にして又元
の神與金堂のあむ向は飛歩の麓ありて東方の役人甲冑を着
たるも小長刀と持右の手も神位の時を持ぐ又地人の妻名打綴と云
してうち中頭屋の院より新徳の休お成る盛盛と頌の上より載
て日づく神樂毎よこれを外におしそは寺勢の傍心と云ふめ
虎傳来ぬなり神樂花々寺傍進む出く草帯ありは財法寺
八邊の社より軒のめとれいするものよ紙を張是小指あらぬ神





行事二上ノ乙

卯 ○ 任吉即采 振津國任吉郡ふあり 神傳六月采下ふ記と
 今日神饗一基瑞籙の外より小門より延幸あり神人柳と持神を
 皇神が皇后十一年辛卯の日あらう
 即日試用せり今日行るはち者多し
 大神采 大和玉座上帝ふあり三福神と云采神大己貴命
 神代卷云大己貴神の幸魂奇魂今何の所は任人中歌より對云吾日本
 國の三諸山は任人と歌ふ故に即宮を彼所ふ宮と就く居る一むは之三福
 神形なりと云々

上巳

○山科系 山城國宇治郡勸修寺ふあり 系神醍醐帝外祖

宮路氏夫婦の霊神勸修寺家の祖也 神傳と供むるけり 今も

○中

中久世ト久世 系山上久我ト久我 東土川大敷 以上七村系

上

菅宮系 近江國野洲郡ふあり 系神二座宇賀魂 一宮

素盞鳥尊 二宮 大市姫 三宮 此一郡の大系也

上

○平野系 山城國宇治郡北聖のふあり 系神五座

第一今本神 源家氏神 第二久度神 仲哀天皇 第三古岡神 仁徳天皇

高階 第四比賣神 天照太神 第五縣神 天德日命 中原清原菅原

延暦年中清社を立貞觀元年十二月九日始々系祀改移つて

○江

江父系 日色岩郡靜原村ふあり 系神倉稻魂命 神饗二基

馬と力ん大系 中の生々神あり

○新

新宮系 近江國大上郡ふあり 系神

彦根 平田 小泉 トカ 山腰 東沼治 西沼治 就吉林 岩村 小の系

上

○松尾系 比賣神 按さる當麻山台神社を

其式神饗一基あり 其先、清原系子成より大系と

大系河の神饗と持又児を奉る玉澤清原を以てハヤラユと

當麻系 大和國葛下郡ふあり 系神當麻都比古社二座

麻子王子命 比賣神 按さる當麻山台神社を

西日武用也江原才云天平二年大社小領者貞親始々系と

神饗七基あり 所謂中殿一基 月讀社一基 標名社一基 二宮一基

宗像社一基 夜手社一基 四大神一基 等あり

其式神饗七系 金堂の傍にあり 系神の式あり

今神下社 神饗を西寺金堂の慶應寺に奉る 長き

未列先社 神饗を西寺金堂の慶應寺に奉る 長き

あり 系神村よりこれを移し又屋敷村よりこれを移し

て神饗社川よりこれを移し又屋敷村よりこれを移し

中卯 ○八幡祭 近江國蒲生郡八幡村あり 祭神 石清水八幡

一條院寺に事奉ふ勧修寺長年中松山に移る別當所を成成

とて此古坊舎五十八箇寺あり鐵國祭の兵火よりつく云滅を

其式申す神とあり又八幡神あり社宮祭兩日と書祭兩日其中

る一日と神祭あり又八幡神あり社宮祭兩日と書祭兩日其中

るの八幡神と云七夜祭の使と合祭は八幡神と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

京師

中辰 ○向日明神祭 山崎國乙訓郡西尾町あり 祭神 素盞鳴鳥

神祇大歳神子 一説云可愛山陵ありて神武天皇と云と云と

寺縁起云同山降豊律降ハ神武定惠の皇子にして養老二年岩倉

山とある所祭所あり是日遇ふ翁云吾と是日向可可愛山陵を移

け山本所より更久一箭と云云ありて今日向山本

移り山向日明神是なりと云

其式寅の日神武天皇の方上極楽村の移所ありて

卯日の夜せり神馬場村より馬上の幸ありと云と云と云と

者の見事と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

ての事と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と

と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と



中午

賀茂清陰系

山崎國愛家那下鴨小落座

神祖皇太神

号と系神二座 大已貴命 東玉依姬 西神祇正宗云社家秘一

申有形 極子露額 難しやと 神名帳云清祖神社大已貴の子

大座神玉依日女と云玉依姫と上賀茂神のそ母ありて落座乃

傳秘なり 武源云上賀茂系神祖神祇正宗 恒例の系式式觀を

して神人列と云神馬は清蓋を覆ひ青樂を奏し東の方比叡山と

西の麓清陰の社より遷す清陰社小祭る西の神二座神祇秘はて

は比と下鴨の神祇向の所也年酉の酉日た葵祭と謂座は秋葵柱と慢

小から我あむるり康富記云嘉吉三年四月廿日丙午鴨御座系

如例云系記中絶する事年ありて一が元禄七年甲戌四月十一日

十四日 酉日 清再興ありて歳を此系記と云と云 二編と云

○

多賀系

近江國犬上郡あり

系神伊弉諾尊

神代卷云伊弉諾尊功既了りて後亦たあり是ふわく天ふ登る

報令して乃日之少宮小留宅と云 近江と云良の言日の初より所より

系式云頭人より系式ありて定む日四日其頭人ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて

系式云系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて系式ありて



中支

○ 磯城系

山城國高野郡小あり 愛宕持現のち紀あり

幸社を月夜愛宕山よりあり一高居を坂路六十町系神二座 伊勢

冊尊火産靈尊 神系圖傳云 軻遇突智者火神也故小は神火

災を掌けり種を平安城の乾隅愛宕山よりあり火災と降くせり

豊葦原卜定記云 戊戌 仁當 王都守護神明座 即天神第七

陰神也火災 永退 爲也 止天 若宮 火産靈 於置玉 奈利偏 仁帝

都靜謐 基也 云々

尚社地古鷹峯の東にあり天應元年釋慶俊今此靈地小嶺一將軍地

神樂二基あり一基は野宮の神樂より聖文と後磯小あり系神神明

は所昔倭勢の海内親王神樂の故倭勢より遷りの新後倭勢より

其式神樂二基と清涼寺の内にありを客の神樂と冠を金鳳へを客

山より韓櫃に納先山と下りて神樂小付を清涼寺内小にを客

ありて神樂の神樂とを客の神樂とを客の神樂とを客の神樂とを客

して藤井氏司の今日其家より衣冠神樂を客の神樂とを客の神樂とを客

朝日

○ 更衣

先代旧事記云四月一日天皇羅縵圓紋の單衣母ハ

直装張袴と衣袴法王云九卿皆羅縵紋の單服を著其直装白

重なり天氣の心節小順て正道正装と著と云々

云々根源云々一衣を著るれは中而れは中而れは中而れは中而れ

神殿の御帳れをびねりてを神殿の御帳れをびねりてを神殿の御帳れ

形を著るれを著るれを著るれを著るれを著るれを著るれを著るれ

を著るれを著るれを著るれを著るれを著るれを著るれを著るれ

威光云四季に通く衣と重なり五月朔より給城用衣をけき

下小袖を著るれを著るれを著るれを著るれを著るれを著るれを著る

四日

○水屋能

今日より南都水屋社の祭祀より社を春日の社

水屋川の南ふあり

三座素盞烏尊稻垣姫南海神女傳云

伏見院の所

疫病流行し依りて古く神樂あり今い地人

申樂に表はれ

む是と水屋の能と云

○

廣瀬竜田祭

大和國廣瀬郡ふあり廣瀬社系神和賀守賀

乃賣神

竜田社系神級長津美令級長戸也令

乙亥辰源云

是西社大和國ふあり祭の日と慶勢也年に二夜あり

大忌風神乃祭

是也風水の社とのりて年穀の豊なり

と新中より

七日

○擬階奏

今乙亥辰源云三月の列見のり成道徳冊と二

省より

りて申すは辰大忌の奏はる依ありと云

奉回

八月

○灌佛

釋尊誕生の日也佛祖統記云周昭王二十四年甲

寅四月八日中天竺國淨飯王の妃摩耶氏太子悉達多を生んとす

大集月藏經云精進と以の故小兒卒天居を其時前狀記とて彼文殿と

於て心智ろとて母の胎に入り藍毘尼林に於て母の右脇に安穩

りて歩み事七歩已小地及び法山海と雲龍を被難陀及び婆難

陀の就王兄水沫淋と洗滌する幸と受とす又釋氏要覽云摩訶利

頭經云佛大衆に告む十方諸佛皆四月八日夜半子時を用く生む

所以何甚夏の薄より殃罪悉く早て棄捨普く生毒事りれと云

の熱くは時氣和適と云也今是佛生日人民佛の功徳を云

佛の形像と活きせり又諸佛功徳經云佛言我今海濱小浴佛の法

と説諸の供養の中寂殊勝とい衆香湯をぬく淨雲の中に在れと云

狀作妙林座を敷き上りて佛と云は衆香湯を以て佛を浴之香

水を用早く後復淨水と以て其像洗淋と云云少許洗滌水と取て自の頭

上より置初は像より上よりと淋の對應ふけ湯を誦云我今灌浴諸



如来淨智功德莊嚴五濁衆生令離垢願證如来淨法身云々國史云仁
明天皇和七年四月八日傳燈大法師位靜安請入清涼殿於如淨佛
とつとく壽奉記云正安殿於山石と造り佛誕の狀と據本乃死
州のむとつとく中座の麓茂密案牘北よ小安一五番れ五ふと五番の盛
五色の絲とつとく衆苑を結ぐ掛布花房と布施一金網を以て五寸六寸
釋迦像と作て金鉢の中にまゝ充佛體法了て天皇親ててび佛と灌ぎれ
を作て佛と法君とつとく拜侍一淨佛一衆佛と布施を結ぐと云々
今日法も法もあつとく淨佛とつとく修と法もあつとく淨佛とつとく修と
花の堂とつとく其内誕生佛の山佛と安て下ふ洞窟茂密はけと云々
此清水と入と小松とつとく小佛に據ぐ又院内小佛と安て下ふ洞窟茂密はけと云々
施と美樂とつとく其内誕生佛の山佛と安て下ふ洞窟茂密はけと云々
蜀石南苑の花を三股とつとく半頭と挿とつとく建と佛とつとく
衆とつとく摩耶夫人とつとく修とつとく安て下ふ洞窟茂密はけと云々
結夏又安居とつとく結夏又安居の半也梵網經云若佛子坐禪結夏安居
とつとく安居とつとく梵網經云若佛子坐禪結夏安居とつとく安居とつとく
とつとく安居とつとく梵網經云若佛子坐禪結夏安居とつとく安居とつとく
道の後淨母摩耶夫人の初利天也登と一夏九旬の間報恩修成況や

三井氏監錫とん

今日より七月十八日百日の間法も法もあつとく淨佛とつとく修と
偈偈とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
佛とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
て寺院とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
燈とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
類以夏衆教

出つとも夏衆教とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と

比叡山戒壇堂佛生會

山と法を結ぐとつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と

郡東へ迫り滋賀郡より

郡東へ迫り滋賀郡よりとつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と

より明徳とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
中興とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
地とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
より又迫りとつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
即ち是處山の正法とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
の二とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
登山の明徳とつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
て草創あり故に比叡山と草むつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と
て草創あり故に比叡山と草むつとく法も法もあつとく淨佛とつとく修と

五成はあはれを看るくけし神樂にむく人後と修に其看ふ樹。玉と
其見る万葉集大伴坂上郎女神樂。神戸手忌穿長竹玉手樂
其見る万葉集大伴坂上郎女神樂。神戸手忌穿長竹玉手樂
其見る万葉集大伴坂上郎女神樂。神戸手忌穿長竹玉手樂

○
今日人年樂其舞の中陵王の仮面舞。一級下里俗

○
春日安居屋 南都にあり

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

○
今日より毎後寺の傍一人妻月社安居屋。天卜泰平の神

新方と陳海を是と云ふは付山伏寛く遊び人々と云ふは云々

○

信濃國佐久郡あり

信濃國佐久郡あり

今日諸人衆集りて登山を各竹の節水と云ふ事難を渡して大

京師

九日

地主祭

信東清水寺にあり神社考云祭神大己貴

本代文殊菩薩と云寺記云坂上岡村舊靈と云

今日神樂を舞臺のありは坂上神社神樂あり又神子頭と云

諸國

十四日

當麻遼供養

大和國葛下郡あり禪林寺と号し

當寺は用明天皇廿五年麻呂古の創り内處初元万法飛院と號し

伊沢又治郎

河内州山田郡あり白鳳二年當麻遼移住此地と云

中將姫もけ寺に傳へ遷徙す乃起は永觀中惠公僧都殿よりわく

未述引接のは金と云ひ其後寛弘元年修於寛印傳奉せ偶よ當ち本

來りて未述の年二十五年薩比假面を彫り四月十四日中將尼

爲小迎接會行ふと云

十三日より十日に及ぶは云々あり十日土人二十人其後薩比假面を彫り

其作薩比假面の概と云ひ中將小迎りて其後薩比假面を彫り

未述引接の年二十五年薩比假面を彫り四月十四日中將尼

爲小迎接會行ふと云

十三日より十日に及ぶは云々あり十日土人二十人其後薩比假面を彫り

其作薩比假面の概と云ひ中將小迎りて其後薩比假面を彫り

○

神衣祭

旧事記云四月十四日天皇神服部小命して三河赤

引神綱系とひく神衣と織又麻績連ふ令とて去年作ふの神麻を
とひく敷絶美衣と織又麻績連ふ令とて去年作ふの神麻を
延喜式云和妙廿四匹 八匹ハ度サ一尺五寸八匹ハ度サ一尺二寸 髻絲頭玉手玉
足玉の緒 袋織の緒絲各十六丈 縫絲六十四條 五尺 長刀子一枚
短刀子 縫針 洋絲 各十 著絲 玉串二枚 韓櫃一合 一合ハ衣と盛
當一合 衣並雜 荒妙衣八十匹 十匹ハ度サ一尺六寸 刀子針各廿枚
韓櫃一合 延喜式云和妙廿四匹 八匹ハ度サ一尺五寸八匹ハ度サ一尺二寸 髻絲頭玉手玉
足玉の緒 袋織の緒絲各十六丈 縫絲六十四條 五尺 長刀子一枚
短刀子 縫針 洋絲 各十 著絲 玉串二枚 韓櫃一合 一合ハ衣と盛
當一合 衣並雜 荒妙衣八十匹 十匹ハ度サ一尺六寸 刀子針各廿枚
韓櫃一合

土壇會 攝津國東成郡天王寺南之門の下土壇家の前ふち

祭神牛頭天王

いづへハ大寺あり今ハ天王寺の傍に寺司衆人等出仕
に當て用は王經は明舞奉りて今日天王寺の傍に寺司衆人等出仕

十五 新修野社大般若 洛東大佛殿の東南ふち

五山素拂 素拂五山と建仁寺東福寺天龍寺相國寺万壽寺
等あり南條寺と五山素拂ありは修驗家の寺院なり

素拂と云ハ家の傍に出世して和合位小僧ト拂子と素拂の義あり
素拂と云ハ家の傍に出世して和合位小僧ト拂子と素拂の義あり
素拂と云ハ家の傍に出世して和合位小僧ト拂子と素拂の義あり
素拂と云ハ家の傍に出世して和合位小僧ト拂子と素拂の義あり

十六 二井寺千圓鏡 近江國滋賀郡二井寺鬼子母神の事也

鬼子母神と訶梨帝母と云智陀大陀南寺元基の附山下に現れて佛
はと備護の誓ありと云あり寺後云訶梨帝母神と云あり天の天
夜叉女名と云ありと云あり五子れ眷属と云あり北印度健駄羅國半支迦之夜
叉將小娘と云あり一千子と云あり千子皆教万鬼と云あり母神の性暴惡ありて
他人の男女試味取く嗽小佛其惡乃と過人當一佛と云あり一子と云あり



弘安四年
 乙未年
 八月
 廿二日
 定家

十七日

日光祭

7
13

國河內郡二

虎山の清衆

祭神

三

東照宮

日光明神

摩多羅神

神傳

思ふ

畧之

佛象記

死別

秋
秋
秋

あり其好

山
經
相

撲流鑑

与あり

行事二上ノ三十一

京師

廿日

如法經會

九月九日
東

山泉源寺

雲龍院上

之修之寺

云

諸國

廿一日

高野山花供

紀伊國

郡子

金剛峯寺

と号に

三

平江道

312

覺行莊

建

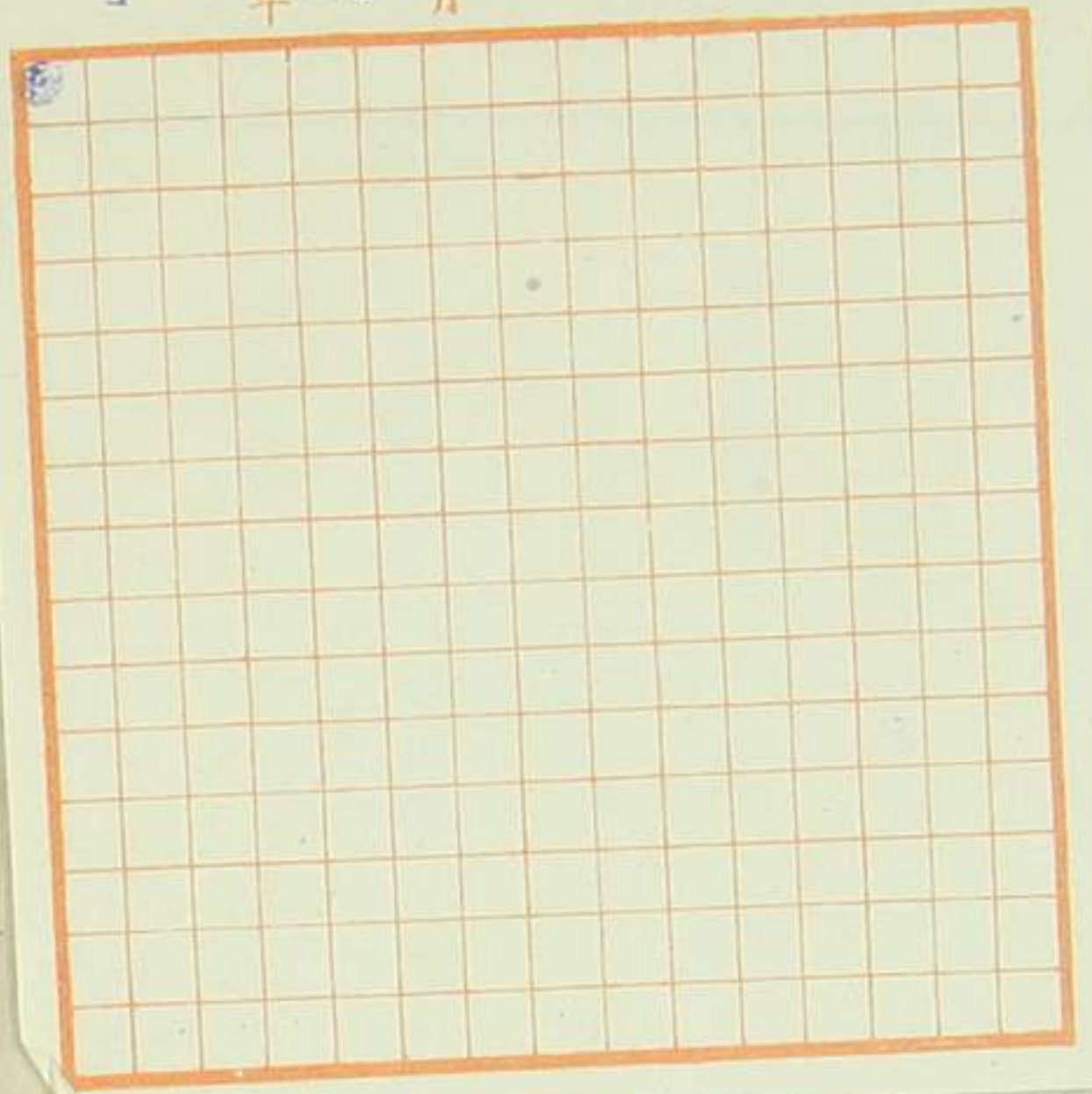
笑源中

3

卷一



4 年 10 月



○ け月 争多く 出ふ 三宝虎のつま 小壯 逸公 院 け月 争 林 表

○ け月 牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる
牡丹 菊 茶 花のむ 盛ん なる

諸國中行事大成卷之三上 終

行事三上三

○い月華多く出ふ三宝虎のつま小壯應公院つまより争ひ成 林雲裏
院中み物あり

○い月牡丹芍薬無子花のむ盛んなり
牡丹をきりて天龍川の河上より大木の牡丹ありしより一樹列布の庭の意り牡丹
列も又大木の牡丹ありしよりなりしより一樹列八橋業年のすより名をいふなり
高柳三十三間を境地ふりしより一樹列盛の庭に下樹人多くこふはいひてきり

諸國中行事大成卷之三上 終

三十三間

